

第8学年○組　社会科學習指導案

指導者　照沼　良介

資料活用力を育てる社会科學習指導
－ I C T の効果的な活用を通して－

1 単元名　近世の日本（外国船の出現と天保の改革）

2 目標

- 江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりや、新しい学問・思想の動きに対する関心を高め、意欲的に追究している。（社会的事象への関心・意欲・態度）
- 江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりから課題を見いだし、時代の特色と変化を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。（社会的な思考・判断・表現）
- 江戸幕府の政治改革と政治の行き詰まりに関する図版、グラフ、史料、年表、歴史地図などの様々な資料を収集するとともに、情報を適切に選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。（資料活用の技能）
- 外国船の接近や幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを通して、幕府政治がしだいに行き詰まっていたことを理解し、その知識を身に付けている。（社会的事象についての知識・理解）

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の歴史的分野（4）「近世の日本」のウ・エを受けて設定した。これは、「産業や交通の発達により町人文化が都市を中心に形成されたことを理解させる」とことや、「社会の変動や幕府の政治改革を通して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させる」ことをねらいとしている。

(2) 生徒の実態

事前アンケート結果（在籍36人　調査人数34人　平成26年6月16日実施）

項目	結果
1 江戸時代の学習は好きですか。	好き14人　やや好き10人 やや嫌い6人　嫌い4人
2 資料から読み取った情報を使って、自分の考えをまとめることは得意ですか。	得意6人　やや得意5人 やや苦手5人　苦手18人
3 「天保の改革」について知っていますか。	名前だけ聞いたことがある11人 知らない23人

第1学期中間テストで、知識問題は66%、思考力を問う問題は41%、資料活用の技能を問う問題は49%の正答率であった。基礎的な知識が身に付いている生徒も多いので、発展的な内容も取り入れるようにしたい。また、江戸時代の学習が好きな生徒の割合も高いことから、好奇心を高める資料を用意することで生徒が学習に意欲的に取り組める環境を作りたい。一方で、テスト・アンケートの結果から、資料を活用し自分の言葉で表現することに苦手意識を持っている生徒が多いことが分かった。苦手意識をなくすために、資料を活用して考えをまとめさせる作業を丁寧に展開していくことを目指す。

(3) テーマに迫るための手立て

本単元では、グループ学習を行う。グループでの調べ学習や考える活動を通し、友達と積極的に関わり合いながら学ぶ楽しさを感じていけるよう工夫し、さまざまな立場から社会的事象を考えることのできる授業を開いていく。

また、本時では、I C T機器を導入と終末の場面で用いる。導入では、プロジェクタを用い、統計資料と、写真資料を映し、天保の改革に至る社会情勢を理解する。終末では、タブレット端末とプロジェクタを用いてグループワークの成果をクラス全体で共有する。I C Tを用いて全体で共通理解を図ることで、クラス全体がやるべきことを理解し、生徒が資料を活用する場を設定する。

さらに、導入・展開で資料を多く用い、社会的事象の意味や意義を読み取る機会を増やし、大名・商人・庶民の立場から天保の改革について考えさせる活動を通して、資料活用力を育むことを目指す。

4 学習と評価の計画（7時間扱い 本時は6校時）

時	学習内容	関	思	技	知	評価規準
1	江戸時代に発展した産業について理解する。	○			◎	農業の発展による暮らしの変化や、町人の力が増したことを理解している。
2	元禄文化について調べ、その特徴を考える。	○		◎		文学作品や「見返り美人図」などから、元禄文化の特色を読み取っている。
3	享保の改革についてそれぞれの立場から考える。	○	◎			幕府の政治改革の影響について、各立場から考察している。
4	田沼と松平の政治をそれぞれの立場から考える。	○	◎			二人の政治を各立場から考察し、改革の目的について考察している。
5	化政文化の特徴を理解し、元禄文化との比較をする。	○		◎		様々な資料から、化政文化の特色を読み取っている。
⑥	天保の改革について各立場から考える。		◎	○		各立場の思いを理解し、幕府政治が行き詰まっていることを考察している。
7	江戸時代の政治改革を比較し、まとめる。		◎		○	それぞれの改革を比較考察し、時代の流れを理解している。

5 本時の学習

- (1) 目標 天保の改革を大名・庶民・商人の立場から考察し、それぞれの立場の思いを表現し、幕府政治の行き詰まりを理解することができる。
 (2) 準備・資料 プロジェクタ、タブレット端末、配付資料、ワークシート
 (3) 展開

時間	学習内容および活動	授業形態	支援・援助の留意点及び評価方法 ○は評価の観点（方法）※テーマに迫るための工夫
2	1 本時の学習課題を理解する。 天保の改革を人々はどうのように評価したのだろう。	一斉	・前時の学習の復習をする。 ・徳川吉宗、田沼意次、松平定信の人物画を用いて、それぞれの名前と政策内容を確認する。
5	2 天保の改革が起った時代背景を考える。 ・打ちこわし ・飢饉 ・百姓一揆	一斉	※資料はプロジェクタで大きく映して読み取りやすいようにする。 ※読み取りが苦手な生徒のために視覚で状況を捉える資料（飢饉の様子）も用意する。 ・飢えて農民が苦しみ、生活が困難な時代であったことを理解できるように支援する。
10	3 天保の改革をまとめると。 ・僕約令（贅沢の禁止） ・株仲間の解散 ・上知令（江戸・大阪周辺を幕府支配下に） ・人返し令	個人	・ワークシートに単語で書くように指示する。 ・書き出した単語を挙手で発表させながら、内容の確認を行えるようにする。 ○改革内容を資料から探し出すことができる。（観察、ワークシート）
25	4 大名・庶民（農民）・商人の立場から天保の改革について考える。 (1) 各政策が、どの立場に対してのものなのか。 (予想される生徒の答え) ・僕約令→庶民 ・株仲間の解散→商人 ・上知令→大名 (2) 各立場からの天保の改革に対する思いをまとめると。 天保の改革は、大名、庶民、商人それぞれが不満をもち、評価が低かった。	グループ	・各立場毎にワークシートに分類できるように助言する。 ・各立場についてグループで意見を共有して分類できているかを助言する。 ○ワークシートに各立場の思いを表現し、幕府政治の行き詰まりについて理解することができる。（観察、ワークシート） ※各自のワークシートをタブレット端末で表示し、グループ内で発表させる。 ・資料から書き出した政策を基に各立場の思いを表現できるように机間指導を行う。
8	6 本時の学習内容のまとめと次時の学習の確認をする。 天保の改革は、大名、庶民、商人それぞれが不満をもち、評価が低かった。	個人	・江戸時代に何度も改革が行われたが、それぞれの立場に不満があり、次第に行き詰まっていたことを理解できるように支援する。